国 語 科 学 習 指 導 案

授業者　教諭　大　西　　優

１　日　時　　平成２２年１１月２日（火）５校時
２　学　級　　２年５組　男子２０名　女子１８名　計３８名　　第３校舎２階
３　主　題　　古典に親しむ ～古人の心に近づく～ 「扇の的」　（国語２　光村図書）
４　主題について
（１）教材について

本単元は、原文中心に学習材を構成しており、古文や漢文の表現から古人の心に触れ、古典に親しむ学習を目指している。

「平家物語」は、琵琶法師によって語り継がれてきた物語である。声に出して読むと、描かれ方の工夫や、表現の仕方のすばらしさを味わうことができる。全十二巻にわたる長編の軍記物語であり、中でも、教科書に取り上げられている部分は 「那須与一」の中でもクライマックスの場面である。

義経に命じられて死を覚悟で扇の的に向かう那須与一。故郷の神々に祈りを捧げる姿に、いつの世も変わることのない人間の在り方を見ることができる。夕日を受けて、波間に漂う紅の扇は、その後の平家の運命を暗示し、人の世のはかなさを伝えている。

さらに、舞を舞っている平家方の人物を、義経の命令とはいえ、与一が射落とすという非情な場面へと展開する。それまでの、絵に描いたような美しい場面は、一瞬にして戦の場の現実へと引き戻されるのである。

この場面を自分とは無関係のものとして眺めさせるのではなく、与一や当時の人々の心情を読み解きながら、登場人物の気持ちを想像したり、そのことについて「自分はどう思うか」というように古典を自分たちの生活や思いに近づけて考えさせたりするようにしたい。

そのために、古人の思いをより想像しやすくさせるために、武士の生き様をとらえることができる「敦盛の最期」も読んでいく。そのことから、平家物語の世界に浸らせながら、「平家物語」に流れる無常観や滅びの美学、当時の武士の生き方を押さえさせたい。

そういった学習活動から、生徒たちは物語の展開を楽しみながら、そこに表れてくる語り手の言葉や登場人物の行動や生き方の中から、新たなものの見方や考え方を発見し、自分自身が豊かになっていくことを感じるに違いない。

（２）生徒について

明るく開放的で感じたことや気づいたことをどんどん発表する生徒たちである。時には、思いつきや、当を得ない発言が飛び出すこともあるが、どの発言も共感的に受け止められて、和やかな雰囲気の中で意欲的に学習を進めることができる学習集団である。また、気軽に発言できる雰囲気を大切にしながら、授業に臨んでいる。しかし、じっくりと考えて発表することや、自分の考えを進んで文章に書き表したり、本文を根拠にして深く考えたりすることについて、苦手としている生徒が多い。

そのため、本単元では、文章表現を根拠にして、主題に迫る能力や古人の思いを想像して読むことを確実に定着させたい。また、これまでの既習事項を確認しながら、単に作品を読み解くための技能を教師から与えられ、それをこなすという学習のみではなく、生徒の側から発信される思いや意欲に支えられた学習活動も大切にしたい。

（３）指導について

古典の指導については、これまで「Ｃ読むこと」の配慮事項に示されていたものを、今回改訂された学習指導要領では新しく〔伝統的な国語文化と国語の特質に関する事項〕に、ア「伝統的な言語文化に関する事項」として、３領域を通して指導すべき事項として、特に他の指導内容と区別して位置づけられた。これは、国際社会の一員として生きていく資質や能力の一つとして、自国の伝統や文化を理解していることが重要であることを示している。すなわち、これからは生きる力の一つとして、伝統や自国文化への造詣の深さも求められるということであり、国語科の授業に於いても新たな手だてを講じて、様々な切り口から古典文学を取り上げ、親しませていく必要がある。

古文への抵抗をなくすには、まず、読み慣れることである。「平家物語」は琵琶法師によって語り継がれた文学であり、音読に適した学習材だといえる。音読をすれば、すらすら読めるようになる。すると、ある程度意味が理解される。内容がつかめれば、当時の武士の思いに心を寄せ、生徒達なりの感想や考えも生まれてくるであろう。

そこで、音読も大切にしながら、内容を理解させた上で、表現力・思考力の向上を意図した発問を行っていきたい。「表現を根拠に、自分の考えを持たせていく学習活動」を展開していきたい。

文章を深く読んで、分析的に理解するためには、なぞり読みにならない目的意識を持った読み方が必要となる。さらに、自分の考えを持たせる学習に発展させていく必要があるのではないだろうか。学習指導要領への対応を図る授業展開を意識し、明確な根拠に基づく考えを述べ合う学習過程を工夫していきたい。

また、本単元に関する指導事項と言語事項例は次のように押さえている。

○中学校第２学年

【Ｃ 読むこと】　指導事項 イ、 エ　　言語活動例 ア

場面の展開や描写の効果、登場人物の言動の意味などを考え、感想や意見を互いに交流して考えを深める。

【伝統的な言語と国語の特徴に関する事項】　指導事項ア

（ア）作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界を楽しむこと。

（イ）古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること。

５　単元の指導・評価計画（別紙）

６　本時の指導

（１）本時の目標

「扇の的」に描かれている状況を読み取り、武士の生き方を想像して読むことができる。

（【伝統的な言語と国語の特徴に関する事項】　ア　伝統的な言語文化に関する事項（イ））

（２）本時の評価基準

国語への関心・意欲・態度	表現に着目し、意欲的に考えようとしている。
話すこと・聞くこと	大きくはっきりした声で、聞き取りやすい速さで、音読している。
読むこと	「扇の的」やこれまでの学習したことを参考に、武士の生き方を想像しながらまとめている。

７　本時の指導の構想

（１）本時の指導構想

「扇の的」の最後の授業なので、音読を行い、場面を確認したい。導入では、前時の復習として、「扇の的」を音読し、「年五十ばかりなる男を射よ。」と命令された時の与一の気持ちを確認する。また､展開前段では｢あ、射たり。」という人、「情けなし。」という人、それぞれの思いについて触れ、自分ならどちらの立場か、武士の生き方を読みとって自分の考えを持たせたい。いずれも正解はないので、自分の考えに理由をつけて想像させ、発表しあう中で他の意見を聞き、自分の考えに役立たせ、新たな見方ととらえ方で武士の心や生き方に迫りたい。

□ 最後に、これまで学習した「敦盛の最期」も参考にしながら、当時の武士の生き方

をまとめさせていく。「平家物語」を貫くものでもある「滅びの美学」について考えさせることで、より主体的な読みを展開し、作品について、様々な意見交流ができるようにしていきたい。

また、「読むこと」領域の授業改善が重要視されているので、音読なども含めた「読み方」にも力を入れたい。

（２）「よく考え、伝え合う活動」について

２～３人程度のグループを設定し、「あ、射たり。」という人、「情けなし。」という人、それぞれの思いについて触れ、自分ならどちらの立場か、武士の生き方や考えを読みとって自分の考えを持たせ交流させたい。

（３）本時の展開

段階	学　習　活　動	よく考え　伝え合う活動 を通してねらいにせまるための手だて	
		評価の視点	指導上の留意点
導入 5分	１ 前時の学習を想起する。 （命令された時の与一の気持ちを想起する。）		１　与一や合戦に居合わせた人々の気持ちについて再確認し、学習意欲を喚起させる。
	２ 「扇の的」を音読する。（復習）	２　前時までの学習を参考にしながら、大きく、聞き取りやすい速さで音読しているか。	
	３ 本時の学習課題を確認する。 「平家物語」から、当時の武士の生き方を考えよう。	３　本時の学習に意欲をもって取り組んでいるか。	

展 開 35 分	4　「あ、射たり」か。それとも「情けなし」か。自分の立場をはっきりさせて、その理由や考えを発表する。 （予想される生徒の考え） ○「あ、射たり」 「御定ぞ、つかまつれ。」という表現から、武士の世界は、命令には逆らえないので、忠実に命令に従ったから。 ○「情けなし」 「あまりのおもしろさに…」という表現から、敵とはいえ、与一に感嘆して、舞を舞った男をなにも射ることはない。非情すぎると思う。 5　「扇の的」に描かれている状況や、これまでの学習したことを参考に、武士の生き方について考えをまとめる。 （予想される生徒の考え） ○ 厳しい上下関係の中で生きていた。 ○ 名誉を重んじる生き方をしていた。 ○ 武士は平家源氏関係なく、命が散ってしまうことを意識していた。 ○ 戦場では、敵味方関係なく、賞賛し合うこともあった。 ○ 与一は義経の命に絶対従わなければならないほど、厳しい上下関係の中で生きていた。 ○ 与一は故郷に錦を飾ることや一族の命運を一手に背負っていたのだと思う。 ○ 平家の人々の行動には雅を感じ	4　根拠となる表現を明確にし、理由や考えをまとめ、発表しているか。 5　「扇の的」に描かれている状況や、これまでの学習したことを参考に、古人の思いを想像しながらまとめている。	4　どちらかの立場に立てない生徒には、与一をほめるのか、与一をほめた敵を射倒すことはひどいと思うのかを確認させる。「あ、射たり。」を選んだ理由がうまく書けない生徒には、的を射ることが大変だったことを再確認させる。「情けなし。」を選んだ理由がうまく書けていない生徒には、 舞っている男が敵であることを再確認させる。 5　考えるための視点として、次のような点を確認して考えさせる。 ○ 平家と源氏で共通している点について考える。 ○ 平家と源氏の考え方の違いに着目して考える。 ○ 平家物語の登場人物の生き方について考える。

	る。 ○ 源氏は戦いに関して非常な面もあったのだと感じた。 ○ 敦盛は若いけれど、大将としての誇りを捨てず、潔かった。 ○ 直実の行動から、武士ではあるが一人の親としての顔が垣間見られた。 ○ 舞を舞った男は洗浄という場所だからこそ、敵味方なくほめたたえたのかもしれない。 ６　５について、さらに深めるために、２～３人程度のグループで考えを交流させ、自分では気付かなかった考えを取り入れさせる。 ７　グループでの交流から、考えたことについて発表させる。	６　既習事項を生かし、発表の仕方に気をつけながら、自分の考えを述べているか。 ７　グループでの交流で気づいたことや参考になったことを発表しているか。	６　お互いの発表をただ聞くだけでなく、根拠を述べながら説明しているか、確認しながらながら交流させる。（本校研究との関連） ７　生徒の考えは多岐にわたると思われるが、板書等で整理しながら、まとめていく。
終末 10分	８　学習のまとめをする。 （振り返り・自己評価） ９　次の時間の見通しを持つ。	８　本時の学習を振り返って自己評価をし、感想をまとめているか。	８　振り返りとして、交流して気づいたこと、学んだことをまとめ、発表させる。（時間を見ながら、「弓流」の部分の音読もさせたい。） ９　次時の学習内容を予告する。